

魔女つるっぴの
ぐすい
尋問!

風来の団2017



はうっ!!?
こ…こ…こは…

まどろみの中
眠りに入った時の記憶が
無い事に気付き
慌てて目をこじ開ける

はっ!!

そこは見覚えのない
ある様な無い様な
心許ない明るさの
松明が添えられてる
石壁で囲まれた部屋
簡単に言えば、牢屋
みたいなのだった

ぐっ…!!
何よこの縄、魔力で
千切れないじゃない!!

魔導師を捕縛するために
使われる拘束具か…
こんな悪趣味な物を
使うヤツと言えは…

クッククック…
久しぶりだな
宮廷魔導師アリス!

暗がりから
何者かが立ち上がり
聞き覚えのある声と一緒に
歩み寄ってくる

ガキャッ

ガキ




やっぱりカイル!!
またアンタなの!?

目の前に立ってたのは
元同僚の魔導師だった

クッククック：アリスよ
今度こそ貴様の開発した
究極の魔導兵器を
この手中に収めさせてもらおうぞ？

そして、王制を打倒し
替わってこの国の全てを
私が手にするのだ!!
はーはーはーはーはーはーはー!!



さあ、それでは
今回こそ
洗いざらい喋って貰…

……

…なんだその
人を小馬鹿に
したような笑みは!?

アンタも懲りないわねえ
何度攫っても無駄だって
どうせ今回も
アタシに何も出来ないまま
搜索に来た王国軍に突入されて
敗走するだけじゃん?

ぐっ…!!

はー
やんやん

生憎あの兵器の起動には
あたしの純潔で生傷のない身体が
必要になるのよ
陵辱や暴力的な拷問の
限りを尽くして聞き出した所で
兵器は発動出来なくなるだけよ

アレを欲してる限り
アンタはアタシに手を出せないわ

そう、さう言う手合に
捕まった時の為に
あたしに拷問をかける事が
出来ない様に細工をしておいたのだ

さ、わかったら
早くコレ解きなさい！
丁重に饗せば王国軍が
攻め込んできた時に
脱出の手助け位は
してあげるわよ
同期のよしみって事で

ク…クツクツク…
相変わらず私を
どこまでも愚弄してくれよ
しかし今回はそうはいかんぞ？
貴様の身体に傷を付けずに
口を割らせる良い方法を
思いついたのだからな！！

はあ？
アンタごときが何を言っ…

カイルが指を鳴らすと同時に
部屋中の松明が一斉に消える。
どうやら魔力で
灯っていたものだったみたい

ちよつと
ナニ明かり消してんのよ。
おーい、早く外しなさい

カイル!!
聞いてんの？

あんま調子に乗ってると
 今度こそ本気で王国軍に
 身柄を拘束！

あひやあひや
 ！？！

もよっ



あ、あああアンタ
今何をしたの!?

暗闇に目が慣れるまでの
隙間を縫って
背後に回ってたカイルが
いきなり脇腹に指を添えてた

くすぐり責めだ、アリスよ。
これならば貴様の身体に
傷を負わせる事もなく
兵器の在り処を聞き出せるだろ?

いつ!?
くすぐり...

え? ちよつ...

クッククック：
ようやく自分の立場を
少しは理解した様だな

ば：バツカじゃないの!?
それが拷問?
ただじゃ合ってる
だけのお遊びじゃない!!

ぷるぷる...

わき

わき

んん...

やめ、やめて!!
なんでアンタ、あたしが
ソレ、苦手なのを知っ.....



こ...ここのような方法で
アタシを追い込め...:

は...
あ...
あ...
あ...
あ...!

びびん

わん

わん

わん

わん

わん

おやおやどうしたアリスよ。
くすぐり責めと聞いた途端に
随分口数が増えたではないか？

はっ...!!
そんなコト...は...!!

やめ...脇腹とお腹
ほんと弱いんだから
やめ...



甘く見るなよ？
くすぐり責めも手段次第では
精神を直接引っ掻き回す
れっきとした拷問になる！

クックククク...

ムムム

はあ...

はっ...

はっ...

おっ...

おっ...

はっ...

ばっ...
カ
カ!!

こんな幼稚な手段で
アタシがネをあげる訳が...

果たしてどうかかな？

カイルの指があたしの脇腹に沿って
激しく蠢き出した途端に
じよわじよわした寒気が
背中を走り、ビクビクっと
身体が跳ね出した





ふ、ぎけないで
ふざけないっ…でええっ!!
ゆるひゃっ…絶対許さなあっ…
いひっ!? ひっ…こ、こんな事して
ただで済むと思っ…

ふ、ぎけないで
ふざけないっ…でええっ!!
ゆるひゃっ…絶対許さなあっ…
いひっ!? ひっ…こ、こんな事して
ただで済むと思っ…

ほーれほれほれ、どうした?
許さないからどうだと言うのだけ?
こんな序盤でそんな
狂った声を出してる様では
先が思いやられるぞお?



調子に乗ってるとは…
こう言うのを言うのかな？

調子に乗るのも仕方なかろう？
くすぐり拷問の効果がこれほど
抜群だとは思ひもしなかつたからなあ？



はあ
はあ
……

はひっ

はあっ……

すっ……

ふっふっ

ふっふっ

クワッ
クワッ

さて、布越しの責めも
よいものだが
やはりここは肌に直接……
定番の腋責めと行きたい所だな

はっ……

あッ……!!
こ、こら……やめっ
そこは………!!



バズン

それ
こちよこちよこちよこちよ
こちよこちよこちよ
こちよ~~~~~と!!

こちよこちよこちよこちよ
こちよこちよこちよこちよ
こちよこちよこちよこちよ





だっ：だめええええええええっ!!
目一杯縄で腕が引っ張られてるから
肌が皮膚がピンと張り詰めててっ!!
力を入れても感度が鈍らないよおおおおっ!!

あいいい
は、きやー！ー！ー！はははははは
やめちよっ...あ、あああああっ!!

うなこなこな

うなこなこな

ならこっちもどうかな？

...首筋っ!!

腋以上に、神経に
ピンピン来るのでは
ないか？
耐えるなら存分に耐
えるがいい。
このアジトに張って
ある結果の効果で
貴様の力は封じられ
ているから
王国軍の捜索隊が魔
力反応を頼りに
ここを突き止めるの
は
相当時間がかかるだ
ろう



それまでたつぷりと余りある時間を
我々は貴様の白白に使えばいい。
ある意味肉体的痛みよりもキツイ
精神攻撃に、どこまで耐えられるかな？



あぁいいいいいいいいっ!!?

あぁああーはははははははははは!!
ちよ、やめ、やめてほオんとやめ、てえええ
あ、あ…もオやららあははははははははははっ!!



だから止めて欲しければ
とつとと魔導兵器にっつば
根掘り葉掘り喋ればいいだけのこと！

うきひいひいひいひいひいひい！！
ひっ、ヒッ！ヒヒッ！！ヒ…

上半身の敏感な所を動き回る
くすぐったさを逃がそうと
ダンダンと強い足踏みを繰り返す

カイル様
準備が整いました

おお、待ちかねたぞ！

ヒッ!
!?

くすぐり責めを堪えるのに必死で
緑の装束を纏った男達が
周りに集まってるのに
全く気付かなかった。
普段なら、魔力を纏った人間の気配なんて
一発なのに…!!

ざっ



な…なな、何を!!

ここまで色々なで
自分の魔力が封じられているのを
実感したあたしは
つい弱々しい声でそう口走ってしまう

くすぐり責めにするにも
私一人では手が疲れるからな。
今回は我が配下の魔導師24名にも
加わって貰う



はあっ!?

一瞬、視界が暗転する。
この短時間で体力を
大幅に削り取られた…
だけが理由じゃない

48本の手、二百四十本の指に
一斉にくすぐられるアリスの姿を
眺めるのもまた一興ではないか

んんんっ!!
よんじゅっ…!!

はあっ…

はあっ…

安心しろ。
当然くすぐり責め
以上の事はせぬ

んんんっ!!
よんじゅっ!!

その代わり、ありとあらゆる手段……
くすぐり用に手を加えた黒魔術に
召喚術、魔物や怪しげな道具……
王への忠誠を誓うのも立派だが
その代償としてこれから毎日
気が狂わんばかりのくすぐり責めで
貴様の心を折らせて貰うぞ

……
……
……

さあ、それでは
例のものを持って来い！

はっ！

ひよっ……!!
ひよっほ……ま……って……!!

れ……例のもの……ってなに!?
一体何をやる気なの!?!
ゆ、指でのくすぐり責めだけで
こんなになるのに……
それ専用のもの……を使われたら……
あたし……!!

カイルの部下が部屋に持ち込んだのは
四方150センチ程度の大きさの
透明な檻だった。
部下と一緒に身体を掴み
ポイって感じてあたしをそれに放り込む

こら!!
なんなのよこの箱は!?!
あけなさい!出しなさいってば!!

クッククック:
いいザマだなアリスよ。
本来の魔力を発揮できなければ
貴様も只の女と言う訳だ!

クッ
クッ

クッ
クッ

ぐっ……!


この、このおとおおっ!!

くすぐり責めの余韻が残る身体で
バンバンと目の前を遮る透明な壁を
叩き割ろうと試みてみるけど
魔力で強化されたガラスなのか
そもそもガラスではない何かのか
押しても叩いてもビクともしない

な…何よこれエ…

クッククック…どうした?
随分と表情に余裕が
無くなってきたのでは
ないか?
流石に自分に有効な拷問手段が
あったとわかれば
これまでの様にはいくまい?

そうですねカイル様。
これまでには人質にも関わらず
こちらが手を出せないのを
いい事にふんぞり返って
いましたから



さてアリスよ。
なぜ我が配下が
集まったのか…わかるかね？

……

当然、くすぐりによる尋問に
参加してもらおう為だ。
おい、例のものを見せてやれ

はっ!!

そう言うとき
カイルの配下の何人かが
一斉に呪文を唱え出す。
どんな呪文なのかは
言霊やその組み合わせから
大まかな推測が出来た。
けど、これって……!

…転送魔法!?

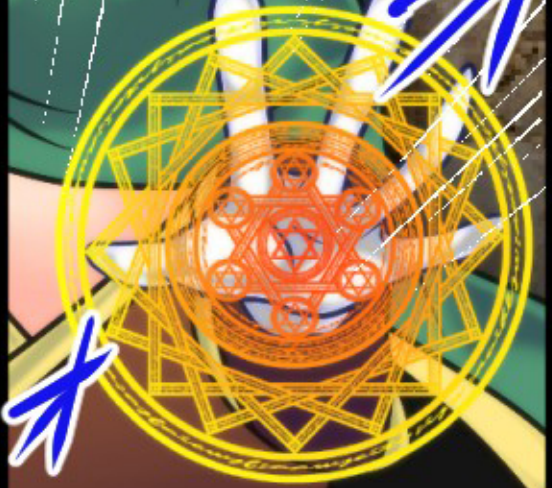
流石に察したか。
魔法を封じられたとは言え
流石はアリスと言った所だな

そうか：!!
部下をこの箱の中に転送して
くすぐろうって魂胆ね!!

クッククック：惜しいな。
我が配下は24人いると
言ったであらう？
それを全員その箱の中に
転送しようものなら
ギユウギユウ詰め
動けなくなるだけだ！

じゃ、じゃあ…？

くすぐり責めをするのであれば、
何も全身を転送する必要はない。
つまり…





こう言う事ですよ

アッ...

んなああっ!?

部下の手が魔法陣に包まれて
消えたと思つた次の瞬間
あたしの周囲に現れる
二つの鈍い光。
そして：

と、まあこの通り
手だけを転送させるのだよ
面白からう？

空中に浮かぶ魔法陣から
手首までが延びている
実に悪趣味な光景でした。

ノッ!!

これなら我が配下全員が
一斉に貴様をくすぐる事が
可能と言う訳だ！

悪趣味…!!
悪趣味過ぎるっ!!

クッククック…流石に声も出ないか？
だが、こんなものではないぞ？
ほら、お前達も発動させるがいい

はっ!!



あ……ちよ
ちよつと待って!!

まずは小手調べだ。
合計6本で許してやろう

喋らなければ
3分毎に一人……つまり
手が二つずつ増えていきます

現在待機中なのは21人。
つまりこれから1時間以上
どんどん手が増え続けますので
ご了承下さい




おい、懇切丁寧に説明してやる必要もあるまい。相手は飽くまで敵勢力の捕虜なのだからな

はっ、失礼いたしました。それではそろそろ……

配下の一人がそう言う。待ちきれないとばかりに箱の中に転送されてる。6本の手が30本の指がわきわきとうごめき出す

やっ……やめ……
ちょ、やだ、嘘でしょ!?
そんな一斉に……!!





指先すら触れてもいないのに
もう身体がムズムズし始める。
皮膚の裏側からじゅわじゅわと
勝手に泡立つ何かがこみ上げてきて
ぞぞぞぞぞっ！と背筋が震えてくる。
いつ終わるとも知れぬくすぐり尋問…
今はまだその“入り口”に立ってるに過ぎない事を
あたしはすぐに思い知らされる事になるのだった